

総務部編 地域を興し、守る

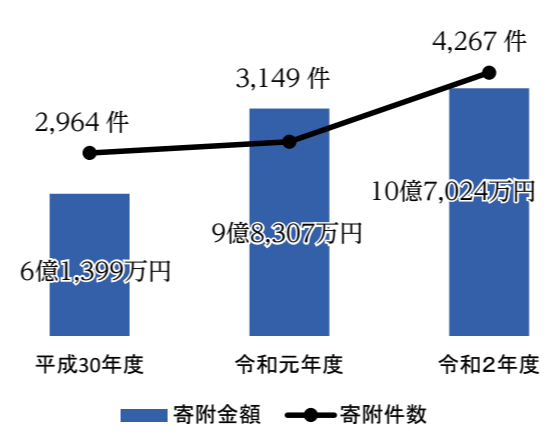
市の政策を連載でお伝えします。
今月号は、行政運営の根幹を支える総務部の
注目施策を紹介します。

注目1 安曇野ふるさと寄附

寄附額10億円を超える

温かい応援の気持ちが集まる
ふるさと納税は、生まれ育った故郷や、自らの意思で応援したい自治体を選んで寄附できる制度として、平成20年度からスタートしました。

直近3年間の寄附件数・金額 (表1)



市では、豊かな人材の育成、防災力・減災力の強化、出産・子育て環境の充実、産業の活性化、健康長寿への取り組みなど、寄附者の意向に沿って、市が進める重点施策に寄附金を活用しています。

寄附者に贈られる、安曇野市産にこだわった返礼品の品目数は、令和3年7月末現在で約200品目となっています。ミネラルウォーターやジュース、ワインなどの飲料、米、りんご、そば、おやきなどの食料品のほか、パソコンも根強い人気があります。安曇野をアピールできる幅広い品揃えで、多くの返礼品を取り扱うことで、地域産業の活性化を図っています。



具体的な事例として、令和元年度から2年度にかけて、夏場の猛暑から子どもたちを守り、健康で快適に過ごせる保育環境や学習環境を整えるため、認定こども園や小中学校へのエアコン整備費として、寄附金を活用しました。

令和2年11月には、加盟する市内飲食店や宿泊施設などで、料金の支払いに利用できる「電子感謝券(電子ポイント)」をお礼の品に追加しました。また、クラウドファンディングにも積極的に取り組み、移住定住の促進や観光振興などにつなげていきます。

総務部は、総務課・契約検査課・職員課・危機管理課・人権男女共同参画課の5課で構成され、市内の事務事業や組織見直しによる効率化の推進など、市の行政運営全体をつかさどる部署です。それぞれ、条例や例規の制定改廃、公文書管理、市が発注する事業の入札検査事務、人事管理、防災や災害対応、男女共同参画社会や多文化共生社会の推進などを担当しています。

非常持出用袋を準備しよう！市は防災用品の購入に対し、補助金を用意しています。まだご家庭に備蓄品の備えが無い方は、ぜひ制度をご利用ください。

注目2 地域の防災力を高める

自助・共助・公助
地域の安心安全を守る消防団

市消防団は16分団あり、現在は842人の団員が地域に密着した消防・防災のリーダーとして活躍しています。火災現場での消火活動はもとより、予防のための啓発、行方不明者の捜索、地震や台風、豪雨時の警戒活動など、消防団に課せられた役割は多岐にわたります。

日頃から地域の皆さんと一緒にたつて防災活動に取り組む組織を「自主防災組織」といいます。地域やご近所同士など、お互いに顔が分かる人との関係の中で、事前に役割分担を決めて備えることが、

被害の軽減につながります。市は、自主防災組織に資機材の購入や活動支援のための補助制度を用意しており、昨年度は44組織に約328万円を交付しました。各地域の自主防災組織では、新型コロナウイルスの影響を受け、防災訓練の中止や延期を余儀なくされましたが、屋外での訓練に変更するなど、それぞれ工夫を凝らしながらも組織の防災力向上に取り組んでいました。

の災害に対する警戒を強めてもらえるようにしました。また、信州大学の調査による「揺れやすさマップ」を掲載したほか、災害発生時の仕組みや、備えについての情報を拡充し、より防災に特化したマップとなっています。

消防団の出動件数・人数 (表2)

出動件数・人数/年度	H28	H29	H30	R1	R2
火災件数	9件	17件	12件	13件	16件
火災出動人員	469人	662人	537人	731人	649人
行方不明者捜索件数	5件	7件	1件	4件	5件
行方不明者捜索出動人員	633人	434人	74人	145人	303人
水防活動出動件数	0件	2件	0件	2件	2件
水防活動出動人員	0人	432人	0人	33人	241人
合計	14件	26件	13件	19件	23件
	1,102人	1,528人	611人	909人	1,193人

一口メモ

ふるさと納税のしくみ

自分が選んだ自治体に寄附を行った場合に、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から原則全額が控除される制度です(一定の上限あり)。税控除を受けるには、確定申告をするか、ワンストップ特例制度の手続きが必要です。

地域防災の要「消防団」

消防団は、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員です。年額の報酬と火災や訓練に出動した場合は手当が支給されます。市内に居住または勤務している18歳以上の健康な方であれば、誰でも入団できます。

部長ミニインタビュー



総務部長
久保田 剛生

安曇野に暮らし、「幸せ」と感じるまちづくりを

コロナの感染拡大、8月の大雨と、常に緊張感を持って、気が抜けない日々が続いています。この度の大雨では、避難情報に対し、市民の皆さまの避難行動に繋がらなかったことが課題と感じています。「100回避難して、100回災害が来なくても、101回目も必ず逃げる」、これは2月の防災講演会での加藤長野市長の言葉です。市民の皆さまには、どこに、どのタイミングで逃げるかという「避難スイッチ」をあらかじめ考えてほしいと思います。